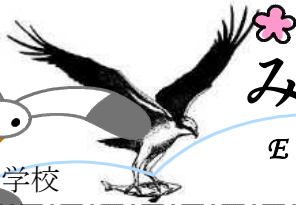


校長室より



薩摩川内市立里小学校



みさごたより

Espresso Part10

2022. 7.8 (金)

7月



文責：永野

No. 4 (計26)


海のこわさも知ろう！

そして スイミーの世界



7月になり、みんなが楽しみにしている夏休みが近づいてきましたね。「みさごたより」No2で甑島の海の魅力についてふれましたが、休みを前に、海のこわさも伝えておかなければと思いました。

そういう校長先生 海しよっちゅう入ってますよね。と言われそうですが、以前お話したように私はタンクの本数で1000本近く潜ってきたダイバーですし、水難救助員でもあります。冬でも本土に帰っている休日は、プールでキロ単位で泳ぐ訓練をしています。そして、私自身、こわい思いをいくつも経験する中で、海の安全を強く意識するようになっていきます。


ですから、よーくお話をきいてください。そういえば最近、

子供たちが、 こちらへんで遊んでいるという話


がありましたから、今日はまず のこわさからお話ししましょう。

 テトラポッドは、波けしブロックと言われるように、波の衝撃をやわらげるために置かれています。その中はかなり空洞がありますが、波やうねりがある時、誤って落ちてしまうと、まず助かりません。テトラポッドの中では、海水は複雑に動き、奥へ、奥へと引き込まれてしまいます。また、その表面には、さまざまな貝がついていますから、それらの貝が刃物となり、ザックリと切られてしまいます（船を泊めてあるロープなどにも、貝がついていて手を切るときがあるので注意が必要です）。もちろん  落ちて頭とか打ったら大変です・・・。

次に、

 離岸流について、これは岸ふきんから、気づいたら沖へ沖へと流されてしまう危険な流れで、波や潮流の関係で発生します。浮き輪で浮いていると、岸に戻れなくなりあわてます。泳ぐときは大人と一緒になければなりません。

さあ、ここからは海の危険な生物編です。

あれ～きれいな水風船みたいなもの →  が岸に打ち上げられていても、さわっては

いけません。写真はカツオノエボシというクラゲで猛毒があり、今年は場所によっては大量発生しているそうです。もちろん海の中もクラゲ類はただよってますから注意が必要です。まだまだいきます。

潮が引いたとき、潮だまりなどで小さなタコを見かけたら、これも注意が必要です。

最近里でも目撃情報のあるヒョウモンダコ（興奮すると、青や黄色のもようがでます）

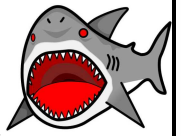
は、猛毒をもっていて、かまれると大変危険です・・・。（裏面へ つづく） 



そのほか里で見かけた毒のある生き物には、アカエイ（かなりでかい）だったり、ミノカサゴ だったりといろいろです…。



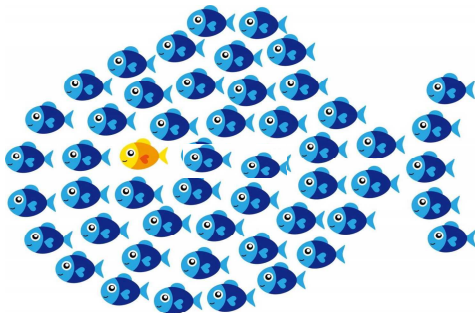
**こ〜ちょ〜せんせー なんかこわくなってテンション↓↓
です〜** そうですね。そのほかに →



についてのお話もあるのですが（私はサメ好きです）、これはまた別の機会としましょう。

海と正しくつきあうということは、まず、海のコワさを正しく知ることだと私は思っています。みんなのおじいちゃんやお父さんたちの世代は、この里の海で、海の恵とともに、海のコワさも体験しつつ育って海とのかかわりを深めてきたんだらうなあ〜 と思います。みんなは、10年もたたないうちに島立ちを迎え、この里を離れます。里の海はみんなの心に、キラキラとした宝物として残ってもらいたい。そう思います。 さあ、話を **スイミーの世界** に移します。


2年生が、この前国語の教科書に載っている **スイミー**（小さな魚たちが協力して大きな魚となり、大がた魚から身を守っていくお話）をすてきな舞台セットを準備し、朗読劇の発表をしていました。




その世界は、海に入るたびに体験します。

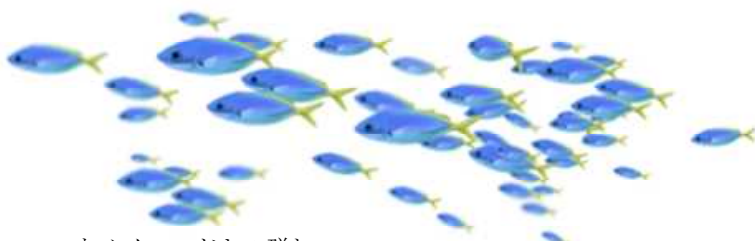
鉾をもって海に入っている、「この人は、ぼくたちに悪いこと
としない。」 そう判断すると、逆に「ぼくらを守って」と寄ってきます。キビナゴの群れのほか、最近よく遊びにくるのは、15cm ぐらいのカンパチ の子供たち 10 匹ぐらいの編隊

で、泳いでいるとずっとずっとついてきます。よく見るとその中に1匹だけ ツムブリの赤ちゃんが混ざっていて、本当に スイミー みたいでした。小さなお魚どうし、種類は違っても、本当に助け合って生きています。

とつぜん目の前に巨大魚があ〜 とおどかしてくるのは  イガキダイの赤ちゃんたち3匹です。 水中めがねのすぐ前にあらわれるので、大きく見えてビックリしますが、実際は2,3cmです。手で押して泳いでいる浮き輪の影にかくれてずっとついてきます。

それからこの前は、青の体に黄い背びれと尾びれでダイバーに人気のある **ウメイロモドキ** の群れを見ました。南方系のお魚ですが、この甌島にもいるんだ！ うれしくなりました♪

そして、そして とお〜ってもすごかったのは、村東のテトラの沖側でみかけた、 シマアジ の数百匹にもなるかという赤ちゃんたちの群れ、まるで流れ星の中を泳いでるようなとてもきれいな光景でした。



ウメイロモドキの群れ

甌島の海は、恵をわけてくれるだけでなく、心もとてもいやしてくれる
とってもすてきな世界でもあったのでした♪